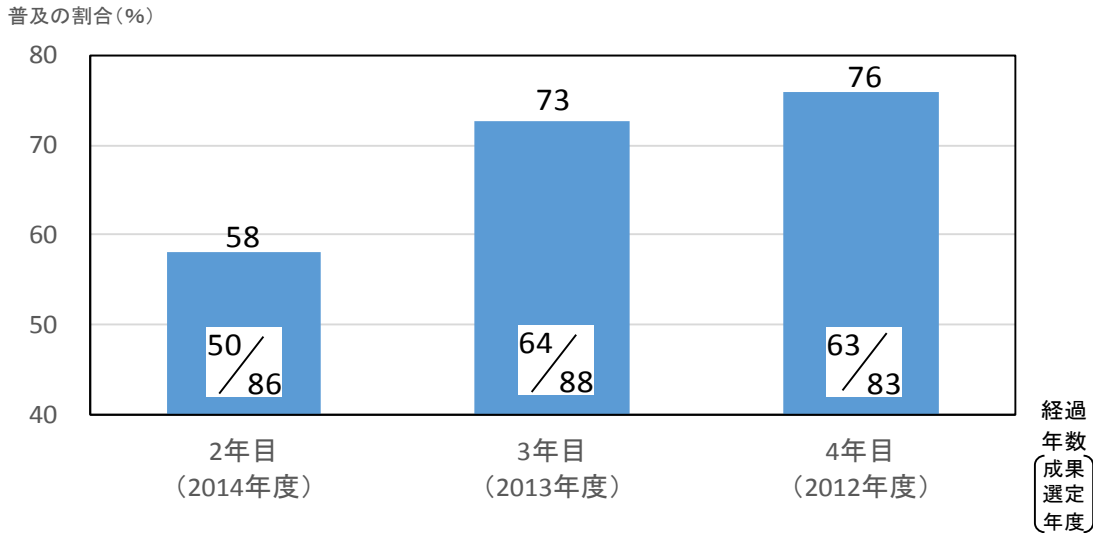


普及成果・主要普及成果の普及状況

農研機構は2016年度に研究成果に関する調査を実施しました。2016年度の調査では、2012年度から2014年度に選定した「普及成果」及び「主要普及成果」について普及状況を把握しました。その結果、選定から2年目となる成果(2014年度選定)の普及の割合は6割であったものの、時間が経過するに従い徐々に増加し、選定から4年目となる成果(2012年度選定)の普及の割合は全体の3/4を超えました(図1)。

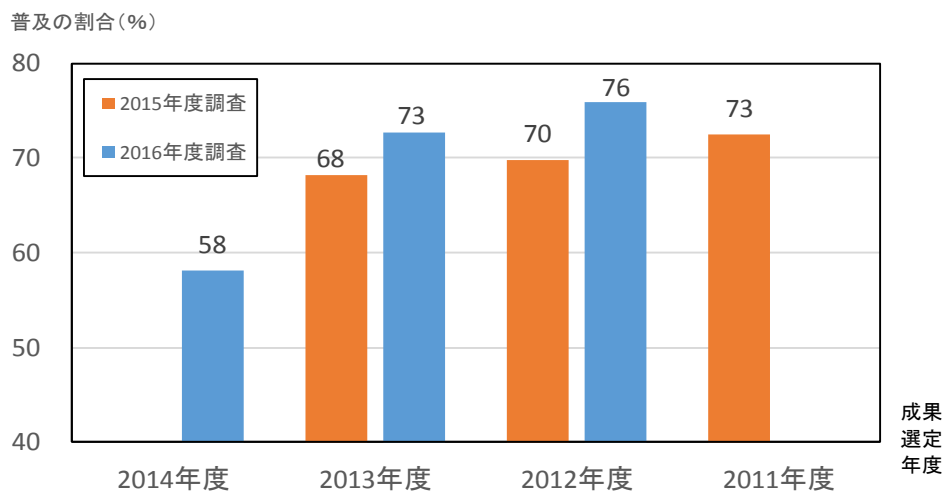
図1 過年度の普及成果・主要普及成果の普及状況



注: グラフ中の分数の分母は当該年度に選定した普及成果・主要普及成果の総数、分子は普及が図られた普及成果・主要普及成果の数を示す。

また、普及の割合を前年度(2015年度)の調査結果(注)と比較すると、2013年度と2012年度に選定した成果について、2016年度の調査結果の方が値が高く、いずれも時間の経過とともに普及が進展していることがわかりました。(図2)。

図2 成果の普及状況の経年変化



注: 2015年度調査と2016年度調査は普及状況の把握方法が同一ではないことから、比較するには注意が必要である。